

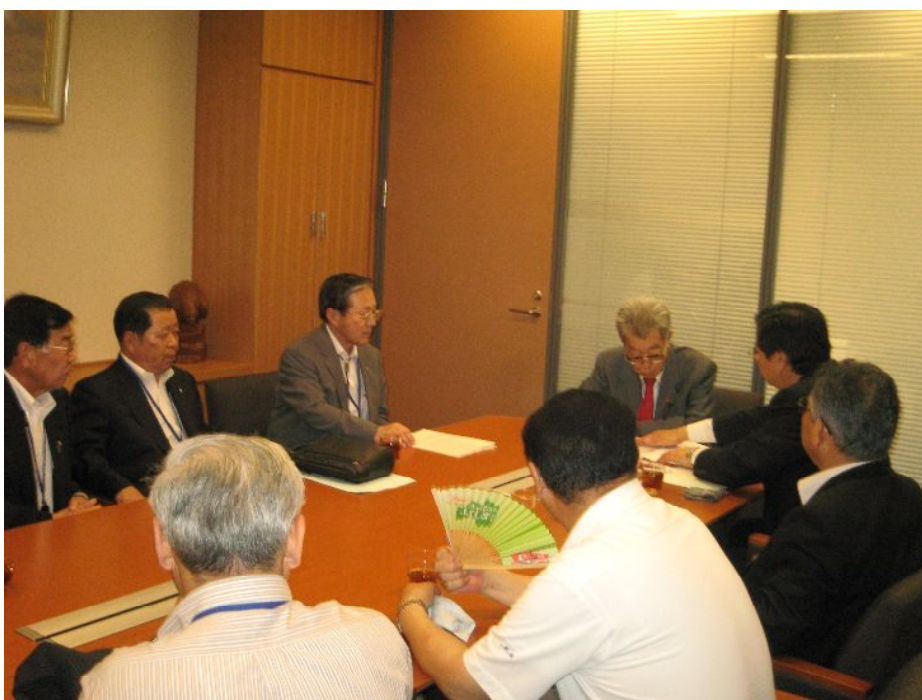
要 望 活 動 報 告 書

<p>実 施 日</p>	<p>平成24年7月10日(火)</p>																																										
<p>要 望 者</p>	<p>会津総合開発協議会 役員</p> <table border="0"> <tr> <td>会 長</td> <td>会津若松市長</td> <td>室井 照平</td> </tr> <tr> <td>副会長</td> <td>喜多方市長</td> <td>山口 信也</td> </tr> <tr> <td>副会長</td> <td>北塩原村長</td> <td>小椋 敏一</td> </tr> <tr> <td>副会長</td> <td>柳津町長</td> <td>井関 庄一</td> </tr> <tr> <td>部会長</td> <td>会津若松市議会議長</td> <td>目黒章三郎</td> </tr> <tr> <td>部会長</td> <td>西会津町長</td> <td>伊藤 勝</td> </tr> <tr> <td>部会長</td> <td>只見町長</td> <td>目黒 吉久</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(代理 副町長</td> <td>久保 克昌)</td> </tr> <tr> <td>理 事</td> <td>喜多方市議会議長</td> <td>佐藤 昭大</td> </tr> <tr> <td>理 事</td> <td>只見町議会議長</td> <td>齋藤 邦夫</td> </tr> <tr> <td>理 事</td> <td>磐梯町長</td> <td>五十嵐源市</td> </tr> <tr> <td>理 事</td> <td>昭和村長</td> <td>馬場 孝允</td> </tr> <tr> <td>理 事</td> <td>柳津町議会議長</td> <td>田崎 為浩</td> </tr> <tr> <td>監 事</td> <td>下郷町議会議長</td> <td>佐藤 孔一</td> </tr> </table>	会 長	会津若松市長	室井 照平	副会長	喜多方市長	山口 信也	副会長	北塩原村長	小椋 敏一	副会長	柳津町長	井関 庄一	部会長	会津若松市議会議長	目黒章三郎	部会長	西会津町長	伊藤 勝	部会長	只見町長	目黒 吉久		(代理 副町長	久保 克昌)	理 事	喜多方市議会議長	佐藤 昭大	理 事	只見町議会議長	齋藤 邦夫	理 事	磐梯町長	五十嵐源市	理 事	昭和村長	馬場 孝允	理 事	柳津町議会議長	田崎 為浩	監 事	下郷町議会議長	佐藤 孔一
会 長	会津若松市長	室井 照平																																									
副会長	喜多方市長	山口 信也																																									
副会長	北塩原村長	小椋 敏一																																									
副会長	柳津町長	井関 庄一																																									
部会長	会津若松市議会議長	目黒章三郎																																									
部会長	西会津町長	伊藤 勝																																									
部会長	只見町長	目黒 吉久																																									
	(代理 副町長	久保 克昌)																																									
理 事	喜多方市議会議長	佐藤 昭大																																									
理 事	只見町議会議長	齋藤 邦夫																																									
理 事	磐梯町長	五十嵐源市																																									
理 事	昭和村長	馬場 孝允																																									
理 事	柳津町議会議長	田崎 為浩																																									
監 事	下郷町議会議長	佐藤 孔一																																									
<p>要 望 先</p>	<p>顧問国会議員 衆議院議員 渡部 恒三 様</p> <p>民主党本部 衆議院議員 橋本 清仁 様</p> <p>国土交通省 国土交通大臣政務官 衆議院議員 津島 恭一 様</p> <p>経済産業省 経済産業大臣政務官 衆議院議員 中根 康浩 様 (順不同)</p> <p>※民主党本部、国土交通省、経済産業省につきましては、 顧問国会議員 参議院議員 金子恵美議員にご案内いただきました。</p>																																										
<p>要 望 事 項</p>	<p>「ふくしま産業復興企業立地補助金の予算拡充について」、「磐越自動車道4車線化の早期延伸について」の緊急要望活動を実施いたしました。 ※詳細につきましては、下記をご参照ください。</p>																																										



渡部恒三衆議院議員へ要望書提出。

要望の様子



役員より要望内容を説明。



民主党本部 橋本清仁衆議院議員（東日本大震災復興特別委員会理事）
へ要望書提出。

要望の様子



役員より要望内容を説明。



国土交通省 国土交通大臣政務官 津島恭一衆議院議員へ要望書提出。

要望の様子



役員より要望内容を説明。

豪雨被害を受けたJR只見線の早期復旧と全線開通につきましても併せて支援を求めました。



経済産業省 経済産業大臣政務官 中根康浩衆議院議員へ要望書提出。

要望の様子



役員より要望内容を説明。

「ふくしま産業復興企業立地補助金」の予算拡充について

会津地方においては、リーマンショック以降、地域経済を牽引してきた半導体や自動車関連企業において事業再編や人員削減が行われ、雇用環境はじめ、厳しい経済状況が続いており、さらに昨年の東日本大震災と原子力災害による風評被害で、基幹産業である農業、観光業等に深刻な影響を受けている。

また、会津地方は、被災町村の行政機能と多くの被災者を受け入れ、その被災者の雇用確保も大きな課題であり、企業立地による産業振興と雇用創出が喫緊の課題となっている。

このような状況のもとで、今般の「ふくしま産業復興企業立地補助金」は、過去に例を見ない手厚い優遇制度であり、企業立地促進に弾みをつけ、本県の復興に大きく寄与するものである。

補助金は平成23年度から平成26年度までの制度であることから、会津地域においても、本補助金の効果を最大限に活かしながら、企業立地促進に向けた取り組みを展開していく考えである。

しかしながら、第1回目の申請においては企業からの補助金申請が殺到し、既に補助金申請額が予算額を超過しており、今後の企業立地への影響が懸念される。

本補助金の申請額が予算額を超過していることは、企業の設備投資意欲を喚起していることに他ならず、これは本県の復興につながるものであり、さらにこれらの設備投資は県内への経済的波及効果が期待される場所である。

については、下記事項について特段のご高配をお願いしたい。

記

「ふくしま産業復興企業立地補助金」については、補助申請額が予算額を超過していることから、申請事業者全員が補助対象となれるよう早急に予算の増額補正を行うとともに、当初計画期間である平成26年度までの申請企業についても補助対象とできるよう、十分な予算拡充に努めること。

磐越自動車道 4 車線化の早期延伸について

磐越自動車道（延長約 213 km）は、太平洋と日本海、福島県と新潟県を結ぶ高速交通の大動脈であり、常磐自動車道、東北自動車道及び北陸自動車道と広域ネットワークを形成し、東北地方の経済・産業・文化等の発展に大変重要な役割を果たしている。

また、平成 16 年 10 月に発生した新潟県中越地震、さらに、東日本大震災においては、復旧支援や支援物資の重要な搬送ルートとして大きな役割を果たしており、今後の東北地方復興を支える重要な物流経路である。

また、近年の高速道路使用料無料化措置等により、4 車線化延伸のひとつの指標である通行台数が大幅に増加しており、会津若松～津川間で、平成 17 年には 1 回しか発生していない自然渋滞が、平成 21 年には 11 回も発生している。

現在、会津若松 IC～新潟中央 JCT（95.2 km）間においては、未だ 2 車線の区間が残されており、中央分離帯の無い片側 1 車線の対面通行区間がある。

この区間が 4 車線化されることにより、安全性の確保だけでなく、規制速度の向上（毎時 70km から毎時 80km）による走行時間の短縮が図られ、渋滞発生も抑制できる。

さらに、会津地方が巨大市場である新潟県及び日本海側と高速 4 車線という大動脈で結ばれることは、当地方の発展に大きく資するものであり、現在、急成長を遂げているアジア諸国への輸出産業振興を図る上でも大変重要な整備である。

については、会津地方をはじめとする沿線地域の振興と、本路線の迅速性・定時性、さらには安全性の確保を図るため、下記事項について強く要望する。

記

暫定 2 車線区間である会津若松 IC～新潟中央 JCT（95.2 km）間を、早期に完全 4 車線化すること。